

施設カルテ①

基準日： 令和5年4月1日

施設基本情報

施設名称	旧大前保育所		施設外観	
施設概要	保育所（事務室 保育室 調理室 ほふく室 沐浴室 調乳室 医務休養室 倉庫）			
設置目的	保護者の労働又は疾病その他の事由により、その監護すべき乳児、幼児その他の児童について保育を必要とする場合において、当該児童を保育するため。			
設置根拠（設置条例等）	児童福祉法、子ども・子育て支援法、足利市保育所条例			
所在地	大前町1199			
施設運用開始日	昭和52年4月1日	施設運用終了日	令和5年3月31日	
所管部	健康福祉部	所管課	保育課	
分類	大分類	その他	運営形態	直営
	中分類	その他	防災拠点指定等	
	小分類	跡地	配置形態	単独施設
校区	小学校区	山前小学校	借地の状況	借地なし
	中学校区	西中学校	財産区分	行政財産
土地	用途地域	市街化調整区域	目的外使用	無
	駐車場台数	0 台	建築面積	419.84 m ²
	敷地面積	2,232.83 m ²	合計延床面積	419.84 m ²
			法定容積率	200 %
			法定建ぺい率	60 %



財務情報

【市の収入・支出】(千円)

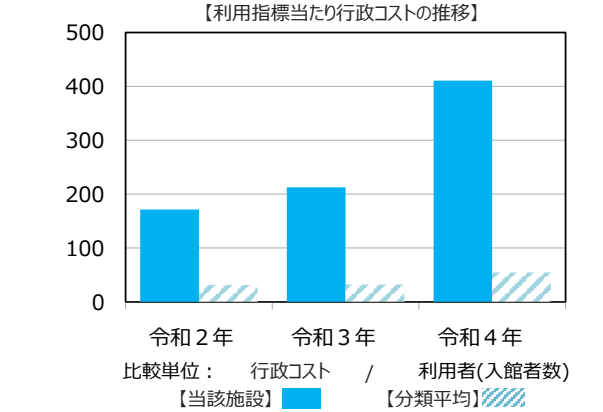
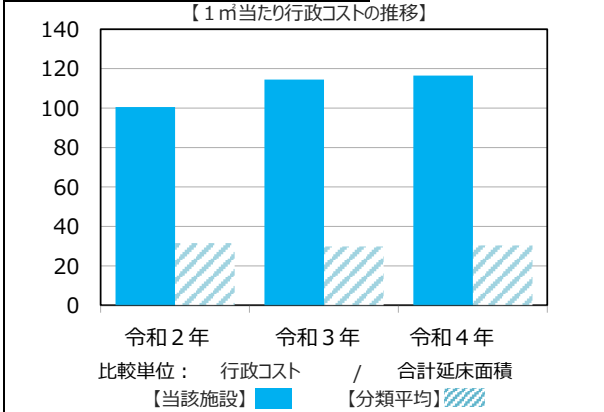
項目/年度	令和2年	令和3年	令和4年	
歳出 (A)	43,980	49,468	49,797	
光熱水費等	1,040	1,015	1,145	
修繕料	126	241	0	
維持保全費	120	158	178	
指定管理料	0	0	0	
その他	0	0	0	
土地・建物の使用料	0	0	0	
人件費	維持管理	2,800	1,700	1,700
	事業運営	36,800	43,500	44,600
事業運営費	3,095	2,855	2,175	
歳入 (B)	1,790	1,428	904	
使用料	1,790	1,428	904	
財産収入	0	0	0	
国県支出金	0	0	0	
その他	0	0	0	
収支(A-B)	42,190	48,041	48,893	
対前年度比(%)		13.9	1.8	

【指定管理者の収入・支出】(千円)

項目	令和2年	令和3年	令和4年
歳出 (C)	0	0	0
光熱水費等	0	0	0
修繕費	0	0	0
維持保全費	0	0	0
その他	0	0	0
土地・建物の使用料	0	0	0
事業運営費	0	0	0
人件費	0	0	0
歳入 (D)	0	0	0
指定管理料	0	0	0
利用料金等	0	0	0
自主事業	0	0	0
その他	0	0	0
収支(C-D)	0	0	0
対前年度比(%)			

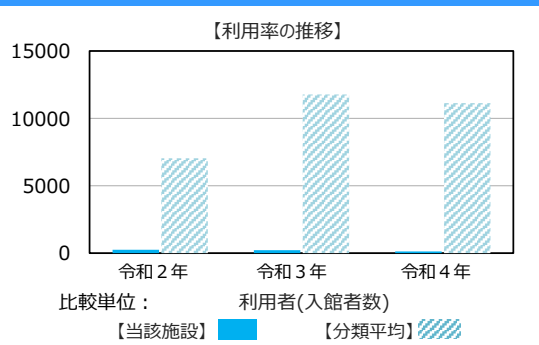
1m当たりの行政コスト	令和2年	令和3年	令和4年
[収支(A-B)/合計延床面積]	100.5	114.4	116.5
平均に使用する分類	中分類		

利用指標当たりの行政コスト	令和2年	令和3年	令和4年
[収支(A-B)/利用指標]	171.5	212.6	410.9



施設サービス供給状況

利用指標	単位	令和2年	令和3年	令和4年	対象
1	利用者(入館者数)	246	226	119	◆
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					



施設カルテ②

基準日: 令和5年4月1日

建物基本情報

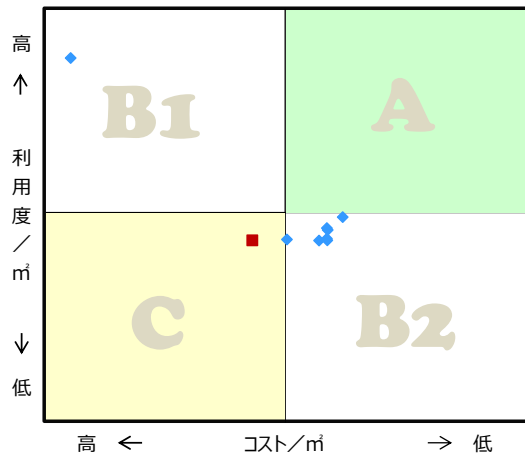
No	棟名称	主体構造	建築年	法定耐用年数	残存耐用年数	階数		延床面積
						地上	地下	
	バリアフリー			耐震基準	改修履歴			
車椅子用エレベーター	施設玄関口スロープ	身障者用トイレ	令和2年		令和3年	令和4年		
1	大前保育所 不要	木造 無	昭和52年 無	22年 旧耐震	-24年	1	0	420㎡
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								

自由記載欄

--

費用対効果分析 (m²あたり利用度とm²あたりコスト)

【費用対効果分析(建物基本情報調査による定量的な分析)】
○費用対効果分析(m²あたりコストとm²あたり利用度)



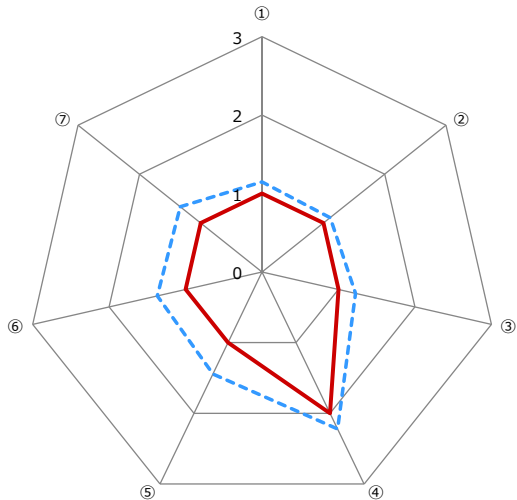
区分	対応	費用対効果のとらえ方
A	継続	コストと利用度のバランスが良い
B 1	コスト改善	コスト面の改善が必要
B 2	利用度改善	利用度の改善が必要
C	見直し	コストと利用度のバランスが悪い

凡例 ■ … 当該施設 ◆ … 比較対象(分類)の他施設

・軸の交差箇所は、用途を同じとする施設全体の移動平均値である。

施設分析

【施設性能評価】
施設管理者アンケートによる定性的な評価



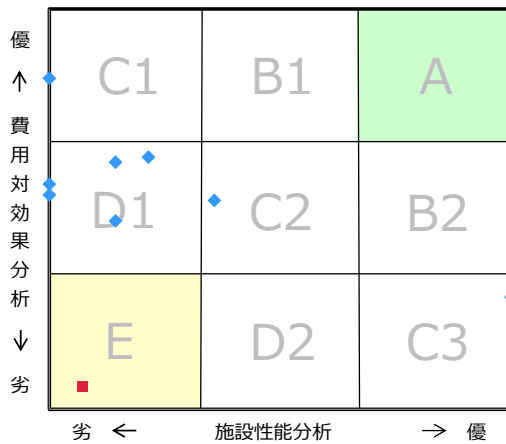
番号	項目	チェックポイント
①	外壁	竣工・修繕後の経過年数と維持管理・劣化状況
②	屋上防水	竣工・修繕後の経過年数と維持管理・劣化状況
③	給排水設備	竣工・修繕後の経過年数と維持管理・劣化状況
④	空調設備	劣化状況と運転状況
⑤	老朽化状況	設定耐用年数からの残存年数による判断
⑥	耐震化状況	耐震基準、耐震診断実施状況
⑦	バリアフリー対応等	「出入口(スロープ)、エレベーター、トイレ」についての対応状況

施設性能評価の考え方	不良 ←—————→ 良好
レーダーチャートの大きさ	小 ←—————→ 大

凡例 — 赤い実線 … 当該施設 — 青い点線 … 比較対象(分類)の他施設

施設評価

【一次評価(費用対効果/施設性能)】



区分	対応	方向性の考え方
A	継続	長寿命化を基本とする
B 1	向上	施設性能の向上を検討する
B 2	向上	費用対効果の向上を検討する
C 1	改善	施設性能の改善を検討する
C 2	改善	施設性能と費用対効果、両方の改善を検討する
C 3	改善	費用対効果の改善を検討する
D 1	見直し	施設性能の見直しを検討する
D 2	見直し	費用対効果の見直しを検討する
E	要見直し	施設性能と費用対効果、両方を見直しが必要である

凡例 ■ … 当該施設 ◆ … 比較対象(分類)の他施設